

第1章 食料・農業・農村を取り巻く情勢

(3) 多久市農業の特徴

多久市農業の概要

多久市は、佐賀県のほぼ中央の内陸部に位置し、四方を山々に囲われた緑豊かな盆地を形成しています。市の中央部を西から東南へ流れる牛津川を中心に、東西に平坦部が開け水田等の耕地が所在し、背後はみかん園を中心とした里山を形成しています。

農業の形態は、米麦、果樹・畜産を基幹に複合経営で発展してきましたが、近年、所得の安定を図るため、施設園芸作物を導入する農家もあります。

農家戸数、農業従事者数、については減少を続けており、総農家数については、694戸（令和元年）、このうち販売農家数は541戸（令和元年）となっています。

総経営耕地面積については、1,160 ha（令和元年）となっており、このうち水田が77.5%を占め、米、麦、大豆については、需要に応じた米生産の推進、収量・品質の向上推進を図っています。

集落営農については、市内に5営農組合があり、現在は、経営品目の麦・大豆に米を含め、法人化に向けて取り組まれています。

果樹については、みかんやビワ、桃などの生産が盛んで、ビワと桃は、県内一の生産量を誇っています。樹園地の大半が傾斜地であるため、国・県単事業を活用した園内道路の整備、省力機械化等を推進しており、みかんにおいては、根域制限栽培団地を整備するなどブランドみかんの生産拡大、高品質な果実づくりに取り組まれています。



野菜については、昭和 58 年から始まった「佐賀農業産地づくり運動」を契機として、いちごをはじめ、アスパラガス、なす等が栽培されています。また、露地野菜として、玉ねぎや野菜うり等が栽培されており、中でも伝統野菜の青しまうりは、多久市特産「青しまうり漬」として全国に根強いファンを持っています。ほかにも、伝統野菜として、「女山大根」と「桐岡なす」があり、地域ブランドの確立に向け、取り組まれています。

畜産については、より安全・安心な食の供給という観点から国、県と連携しながら防疫体制の強化を図り、生産拡大と安定供給に努められています。

